

第176回 令和8年2月16日（月）

「道徳や正義について」

正義というものは非常に厄介で、国や立場によってまったく変わります。事柄によっては完全に逆の主張をする場合もあります。そこに妥協する余地があまりなく、憎悪につながることも良くあります。

ウクライナとロシアの戦争もお互い自国の正義を主張しているので長く続いています。正義などよくわからない子どもたちまで犠牲になることは悲しいことです。世界から早く戦争がなくなってほしいと切に願います。

道徳や正義には未来の視点と過去の視点があります。これはお互い相容れないことがあります。

例えば船が沈没して救命ボートで脱出しました。救命ボートの定員は10名ですが現在11名が乗っており、ボートが沈没しそうです。そこで一番長く生きている老人を降ろそうということになりました。

老人は抵抗します。「私はまだ死にたくない。私のような弱者を助けないとは人間として間違っているのではないか」一方でほかの10名は「このままだと11名が全員助からない。1名が犠牲になることは仕方がない。」

みなさんならどうしますか。また若者の立場だけでなく老人の立場でも考えてみてください。答えは立場によって変わるのでないでしょうか。しかも命がかかっていますからなかなか妥協することができません。ましてこれが国と国ならば、自分の命だけでなく家族の命もかかってくるわけです。

正義は逆の立場から見ると暴論に聞こえることもあります。最後は暴力に発展し、力の強いものが勝つことになります。世界が弱肉強食の帝国主義的史観に変化していく危険をはらみます。

いま世界は大国が自らの正義をふりかざして力の時代に戻ろうとしているように見えます。どの国も少子化に悩み、資本主義の限界を感じているため、植民地支配をしたかつての暗黒時代に回帰しようとしているかのようです。

自分たちの正義を疑うこと、情報を鵜呑みにしないこと、常に批判的精神をもって物事を判断することが大切です。正義は一つではなく、いくつもあることを忘れないでください。

罪のない子供の命を救うことが間違いなく正しい道だと思います。自分の国の子どもだけでなく、世界中の子どもたちを救うために何ができるのかを考えてください。

それよりも優先される正義などはないと思っています。